

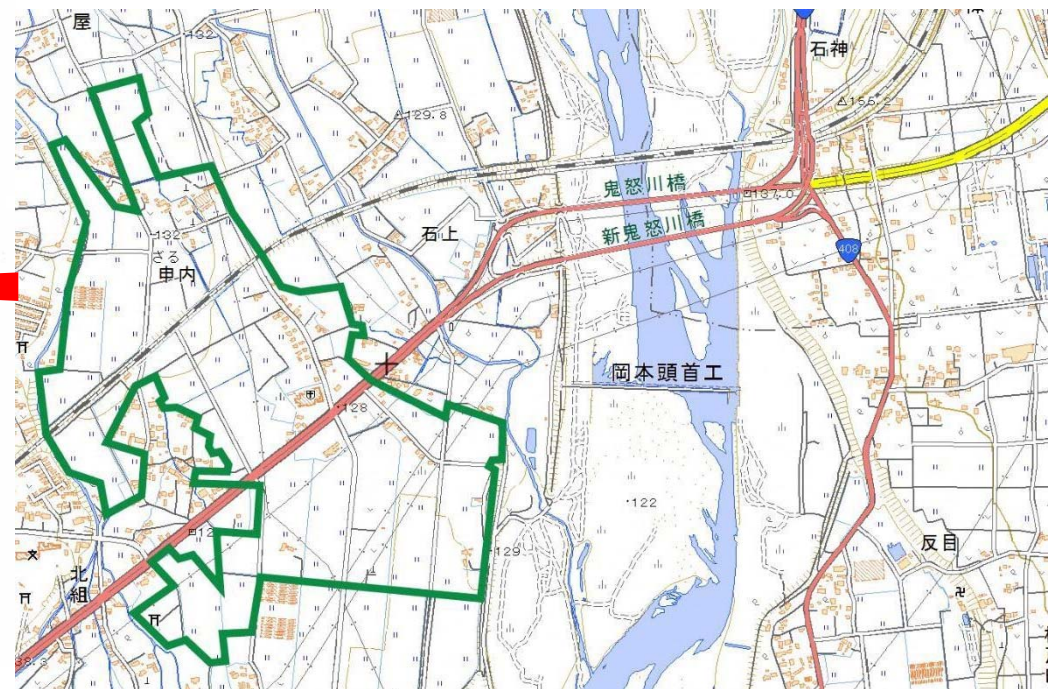
申内環境保全会 (栃木県宇都宮市)



1. 地域の概要

宇都宮市の東部に位置し、ほ場整備後の恵まれた条件、環境の中で営農を行っているが、他産業への兼業化や非農業者の混住化が進んでいる。

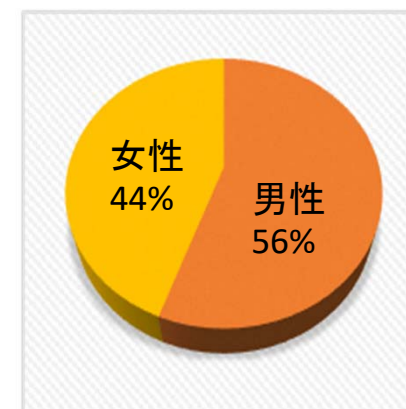
平成10年度にほ場整備が完了したが、近年農業用施設の老朽化や水路の土砂堆積が目立ち始めている。



2. 活動組織の概要

【組織の概要】

- ・ 取組面積: 59.8ha (田59.5ha、畑0.3ha)
- ・ 資源量: 開水路 8.4km 農道 6.7km
- ・ 実施内容: 農地維持支払、資源向上支払(共同活動)
- ・ 交付金額: 約3百万円
- ・ 構成員: 69名(農業者: 30名、非農業者: 39名)
- ・ 構成役員: 9名(男性5名、**女性4名**)



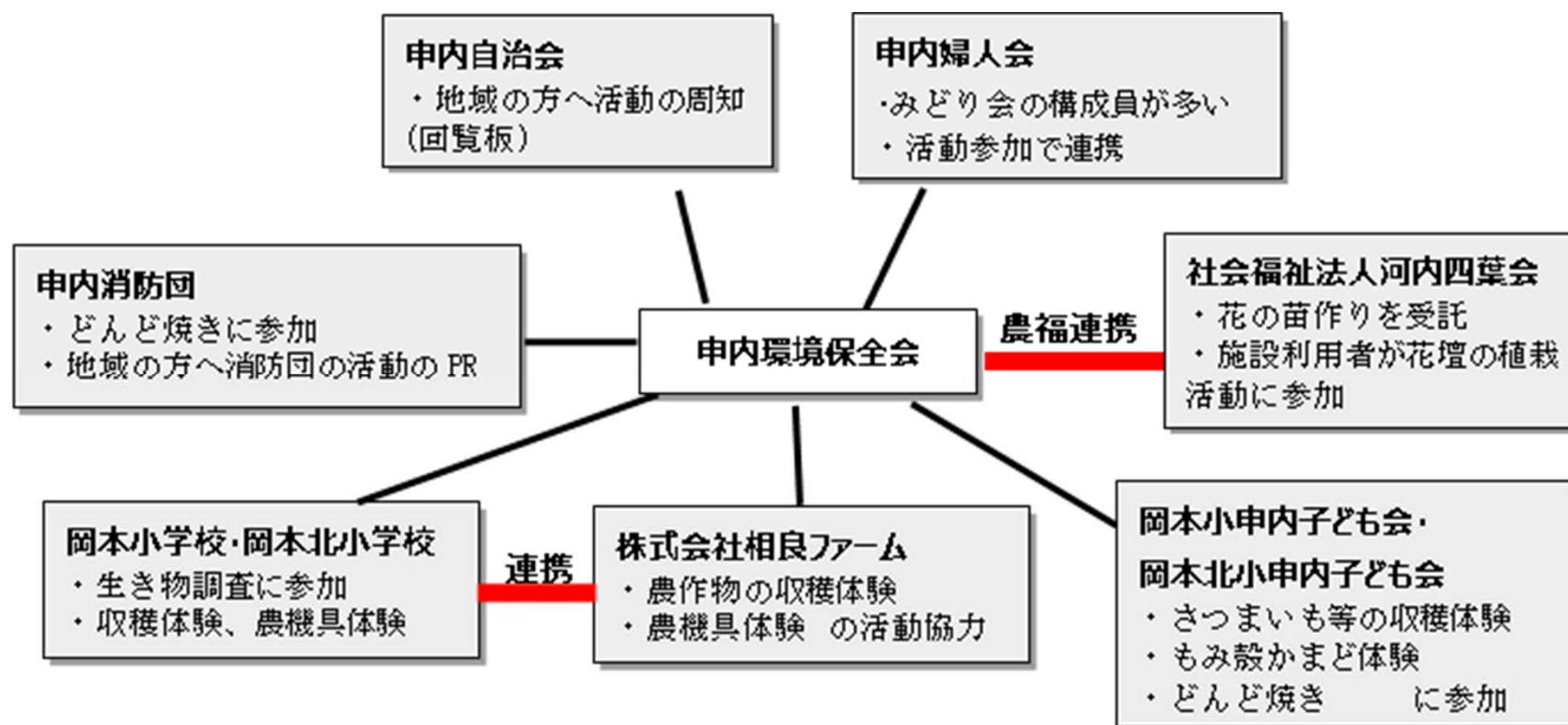
【組織立ち上げの経緯】

- ・ 当該地域は、平成20年度～24年度まで、古き良き農村の自然環境を守っていくことを目的に、『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、農業用施設の補修や植栽などの共同活動を実施していた。
- ・ 農業用施設の補修が十分に実施できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったこともあり、**活動を一旦休止**した。
- ・ 農家、農村地域を守っていくには、やはり共同活動を再開する必要があるだろうという機運が女性組織を中心として高まり、平成27年度に『申内環境保全会』を設立し、**活動を再開**し、現在では**女性役員を中心に会を運営**している。

2. 活動組織の概要

【主な活動】

- ・ 地域の景観形成のための植栽活動（彼岸花ロード、花壇）
- ・ 小学校、子ども会との連携（生き物調査、校外授業、農業体験）
- ・ 社会福祉法人との農福連携
- ・ 地域住民との交流



3-1. 取組状況（農地維持支払）

○地域資源の基礎的な保全活動

非農家を含め地域全体で水路の泥上げや草刈り、水利施設の掃除・点検に取り組んでいる。草刈りについてはハンマーモアを活用し効率化を図っている。

組織の活動方針や地域資源の保全管理の方法等について住民を交えて話し合いを実施している。



草刈り風景



水門の清掃・点検



ハンマーモア使用後



地域住民を交えた話し合い

3-2. 取組状況（資源向上支払（共同））

○施設の軽微な補修

施設の点検を実施、計画的に施設の更新・補修を地域住民の直営施工により実施している。



直営施工による水路の嵩上げ

○多面的機能にかかる増進活動①【地域の小学校及び子ども会と連携した取組】

小学生を対象に、さつまいも、じゃがいも、アスパラガスの収穫体験や、田んぼまわりの生き物調査、もみ殻を使ってご飯を炊くかまど体験を実施するほか、トラクター等の農機具に試乗する体験を行うなど、農村文化に触れてもらう機会を提供している。



子供会と連携した農業体験風景



生き物調査風景

3-2. 取組状況（資源向上支払（共同））

○多面的機能にかかる増進活動②【農福連携の取り組み】

組織が社会福祉法人へ花の苗作りを委託し、法人と協力して、施設の利用者等と一緒に活動を行っている。



福祉法人と連携した活動参加者



福祉法人と連携した活動

3-2. 取組状況（資源向上支払（共同））

○多面的機能にかかる増進活動②【農村文化の伝承】

平成30年から、30年ぶりにどんど焼きを復活させ、開催している。

子どもたちと一緒に繭玉を作り、五穀豊穡を願うお焚き上げを行うことで、農村文化に親しむ機会を創出し、農村と都市との交流に積極的に取り組んでいる。

申内自治会は435の世帯があり、新しい住宅の開発も進んでいるため、地域の関係性の強化や居場所づくりの一つとして重要な役割を果たしている。



子供達との繭玉づくり



どんど焼き

4. 活動の成果と今後の目標

○活動の成果

- ・ 参加者の増加
⇒ 活動への参加が強制されないこと、女性役員が多く参加しやすい雰囲気であることから、共同活動への参加者が増加した。
- ・ 取組の増加
⇒ 女性役員の発案により、小学校や子ども会との交流が活性化されたほか、新たに農福連携の取組を始めるなど、地域コミュニティの強化等に貢献した。
- ・ 組織運営の円滑化
⇒ 収穫体験後の食事会は女性が中心に取り組み、法面の草刈りや水門のごみ浚いなどの力仕事は男性が中心に作業するなど、それぞれ得意分野を担当することで、お互いの良い面を引き出し良好な関係を築いている。

	H27	R1
法面の草刈り	19人	25人
収穫体験活動	43人	65人

参加者の増加



一般社団法人農村漁村文化協会
作成のDVDに事例紹介される

4. 活動成果と今後の目標

○今後の目標

- ・ 本交付金活動を継続することにより、地域の農業・農村の環境を維持したい。
- ・ 地域の子どもたちに色々な農村文化を体験する機会を提供することで、農業の大切さや地域の良さを理解してもらい、今の取組を次世代に引き継ぎたい。

